

の海すの新 な及岩あ
で王 協日工び瀬りチ
、丸渠力本の事マのまヨツサト
ふを底を海工事中、新日本海にか
る見に得て、重工現の在お知らせにも
つる上て、下記の丸の見学会を
て滅が、住友重工浦賀船渠
ご多参にたマ通り行いキ
加なマス機会の無い
くいスト
だ機会の無い
さいです。

ためとママ のすし新るのり及在ドな開
いてとすスセ後。たし前作外び、とが始翌
とごしのトイ、やいいに業しメジブらし日
思協、でエル三一とマ、とをイガ一も、か
い力ボ、事の月ド頑スでし終ン一ム一台ら
まのラーに作にと張トきてえママを三風、
す案ン二專製復ブ、三れはたスス取日二早
。内テ月念に旧一木ば、ヒトトリに九速
をイ頃すつムのての一雪この、外は号本
すアかるい予はい取一のろ木ミシすの格
るのらこて定点る付月季で製ズ、ペ余的
こ皆始とはで検とけ中節す部シ一て波な
と様めに、す・こを匂を。分マ八のを工
とにあるな当。塗ろ完に迎今ス日ヤ受事
し改ニリ面 装で了はえ後取ト現しけを

ま類半回か排ツで血立ぶてか新！かけ海す
しの經、り水クしがつりのい日クの、王ボ
た付過船露しにたか業にしま本のよさ
。着し底わ、到け務沖ばし海棧うな
はてのな午着午め課のした重橋なが
少い塗状後、後ぐ員潮の。工を霧ら
なる装態八水一つは風航タ、離閑遠
い割をと時門時て皆に海ク株れ氣洋
よに行なにを過い、吹とボー、の航
うはつりは閉ざる再かは、の富中海
に、てま船鎖によびれいトド山、に見送り
感海かし底、はう船てえにツ市海乗
じ草らたが海無な乗甲、曳ク西王り
らや二。す水事様り板久かへ宮丸出を受
れ目年前つをド子のに、ね向のバナ

をし船た隊でラす
本終たで。にしんい新
船えがの乗復よテ季秋次
は、生船帰うイ節を席
、東無活当しかアと迎ニ
造京事に初て。のなえ等
船へに多は早早皆り、航
所帰上少、六いさまよ海
で投半戸久カもんしう士
のし期惑し月の如たや
船まのいぶがで何。く川路
休し訓もり過、お海し
整た練ありのぎ練す王の勉
備。航り練ま習ご丸ぎ
を海き習し船しボや

午後四時半の間
FAXによる申込
受付時間 午前九時～午後四時
Fax 0764-38-8821

○月三〇日及び一月三日号を一
所にてお渡しいたします。

ラ・メール一一一二月号を一
所にてお渡しいたします。

右に右の如きは、
FAXによる申込
受付時間 午前九時～午後四時半の間
Fax 0120-37-9271 内線348
午後零時三〇分～十三時と
以外は、業務課員が電
話に出てられないことが多いため、電
話遙慮ください。

三一ヨリヨリボストン航海記
VII
阪本義治著
し島上た歴
たのし本史バ
・間、船をナマ
にキは通マ運河
あるユバズは初め
カ西端、カ大し、本
タんとユカリブ洋海王丸
海峽カタ海へ入つ
を目ン半島北の
指

い様 しめ訓土あくす日のつ
。も朝まと練屋るだ。に午てク
お夕すすに実富さ是は後きへ
体肌。る励習山い非、にま
に寒十 分なる季節ですが、皆
お氣を付けてください。
この新湊でのボランティアの皆さん
の再会を楽しみにしています。

ち会 よは新一 つ残湊 び念港 りなで一
りなで二 寂がの しら本
くか船 くななど つい海
海せ丸 王んと
丸がの バ、再
り港たいン 一で出後、
○す港、太イ船た、
後最平ンは、
の初洋グ、
日の上、三
本寄でセ河
丸港のイ湾
予地帆ルに
定で走のて
はあ訓取セ
次的小を、
と名終を、
う近々行べ
り船子のはに
学航、出え
生海現帆
六一科在すま
カ三の全るも
月名実国とな
習のこく下
乗が生商ろ下
九月八船で半
高す期の
十名等の
六日専門本
實習を開始し
に垂女校に海

退任挨拶
先日は、辰帆後のお忙しい中を、
私たちの為に、送別の会を催してお
頂戴し、ありがとうございました。
紙上を借りて、心から厚くお礼申
申し上げます。想えど、昭和六三年、
航海訓練所を定年退職後、一年半

しをけ 言生た摩自治で^s くよるはれ度¹
た取、本う、天由しに^u バイ² くに近づくにつれ、海水温
。リブ船ま乗^u 楼のてサ^u 七月くに船ニ国際¹ クに近づくに
ルはで組^u が女いグ^u 参加^u くなりしば^u 包^u ま
無ッ、も員い見神るレ^u ト^u 月二日、まニシタ^u ト^u カ^u がら
事クタあにうえそのス^u 冲^u 沖^u 中^u と集結す^u
ニリクリコ思^u しが^u 船^u の指定^u 々^u が聞こえぐる
ユンボまみいニて見^u 等^u 船^u にさし^u 実習生^u をわ
ビ^u せ上が^u ユマ^u 隻^u かか^u に^u とす^u
ヨアトんげ実^u ンた隻^u 鎧^u 地^u ある^u とす^u
六^u の^u て習^u ヨム^u 帆^u 船^u が鎧^u ある^u とす^u
ク^u に支^u 生^u 一^u クタ^u 鎧^u ある^u とす^u
に係^u 留^u を^u 研修來^u の^u た^u の^u は^u

走見続 | めるなす 実華し〇 すが霧生をて
を風らきドにシが積六習やか〇し。見のはを、有名なキニハを見る。
断にれ、と緊ヤら乱月生かか頃か えたとて
念恵た當セ迫ワ帆雲二をにつ、し、 るの
、ま直イし | 走が八喜見たフ、期
機れ員ルたと点日ばえ時口翌 待しには実習
走ずにを夜風開在、せ、にり日 燈、台
を六はト航向始すシまおはダ六月
再月疲リ海定。るヤしお、マ月二
開三ムとま頻不ワたい町イ二、のあ、
し〇のすなら繁安。にア六日
た色る、ぬに定。当明ミ沖の、
たが作る、風通なも、當かに、
た強業の過天たくがヤたす候ら
た。白こは朝二の、が、
た。白こは朝二の、が、

つ海とどどりすご懐ろたつ
した王、冬い住がる指海かい。と平業
かじ丸今スうめどこ導王しろい成務
の後キ氣ばうとの丸くあ富う四課員
ママト持都ごがおで思り山間に富
スズをちでざでかはいまでに富
トみしも、いきげ、ましの二年半に富
工事こどたまし、くが活半着釘本
見のかす住今が任本
ででつ、ん当仕方は當ぎて和
みきたあでたなこともに事々大にま、秀
かないとひ、あをの変いしあ

のさお特よと展が展重といた半し対帆う大好てや上少ンにぶし〇の
船富すい越に退ろ思帆私見帆なな船まこ展私てし以ご成天、四つでなテ回改た月ブ
山ぐ。し考職しいにもらを遣つ船すと帆もおて外と功に最月たふいイ航修海、ラ
市近のえ後くま参、れ続産た六。をそ、りのでに恵初岩とるスア、工王浦ン
太く折てにおす加元るけを今〇
郎で四りいつ願のさ気こ、皆、年
丸す一はまいいでせでど何さ県を
二区九七号、せて申、ていを時ん民過
線おんはし今頂れ願まのにぎ、
富立の、上後くばつで協親、
山ちで今げとこ、ても力し富山
市寄、のまもと皆い優でま山
民り近とす何もさ雅守れの
病くくこかあんすなりる財
院だにろとると姿、貴産

思しし釘にら
いたて本な財ボ業
出。い、り団ラ務
す富た私まのン課
と山だのし皆テ員
、県き三たさイ
つにあ人。んア
い来りのわ、の
昨たがたぎ約皆
日どとめわ二さ
のきうにぎ年ん高
よのご送、半、橋
うこぎ別安おそ
にとい会守世れ武
思をまを、話か男

なざいん山だのら高ん願い丸なま王
るへいた洋の、まさ緊。い、最い。をア氣だ丸富
とまし上顔そたい張操所マ後しそ末のがまに山
と思ひましまよをしい。感帆でスにまれ永
う腰。皆にボか本様きラ「海
と本で当スに寂」が活。1丸
に豆と(財)乗島し
いに豆と(財)乗島し
乗ッしたこまどに、丸日
船クた時ちせん、丸日
し中がはらんに、丸日
てと、にでな、大の本
いい着少来しろそ変回丸
たう任しるたうのそ航で
時こしばよ。と時う作新

だのら高ん願い丸なま王
のましまよをしい。感帆でスにまれ永
を展はトボも帆慣にランテイ
のれはんてがのまんテ王
当のまんテ王
にごすテ王
あり躍ア、「
がをの「
とおみ雪
う祈なの
ごりさ立

し海(富山)にまちし「海練お。海
丸まは王ど。丸習世就王内帰半
はの新生おまえはうはち
湊にまきせ自とどきん分が張い
に来たがにでつう思、ときて言日
おまえはうはち
船はい一ま葉本
船はい一ま葉本
出生す海が丸
船はい一ま葉本
心は、母船
すの、母船
おさ王テう、海
度か。さ

は社で本長をちい
と会二し当い経二がる
復年たに海駕年あ船
内帰半心、と重勤きものもつ
な務たのもつてこ長事て
をこ続と間でそ
そ続と休
いま大變のあ
有私こ陸
意にれ上
義とかの
なつら生
のとでの活

とてかうははだ業湊まい都に
もみりにし、なをに二才へ出業こ業
ある不とかに夢こと対寄年
つと安言し、もちらめよし前
て、がい、思
今あ渡秋つにりたに
船はりさかて見際練
にドまれらい出な、習
乗ッしたこまどに、が海帆
船クた時ちせん、王船
し中がはらんに、丸日
てと、にでな、大の本
いい着少来しろそ変回丸
たう任しるたうのそ航で
時こしばよ。と時う作新

おいす帆さ倒導あツ務し
願つ。船まやを私のつづ私課、航業
いそ四をたかみにもたでに員(財)
いう月語、なるとと平、とと
たのかるボ喜こつ、井就つし帆練員
しごらいうびとて乗船氏職てて船所
ま助のいンをがのを命を當、着海練
す言總機イジきザザジ常、王丸船
ご展会アてる、理乗は念王水
指帆だのおりとシツま事担マ財丸落
導等と皆まにブシ一當ザ團を
宜で思様まにブシ一當ザ團を
しはいとす、のたの官に下昌
く、まもさ面。指でシ業船直

いににこ皆すこが船訓をまきえ
ま皆な戻一と様ると現だ練実し、富て
しさりり〇がどこを役つ所はるて今山な
たんま、月でもと懐のたに、こ、年県り
、し新一き樂がか時の入海と富のにま
本た、日ましでしにで所王が山二来せ
当に、海かしくきく航すし丸で月でん
王らた海、王丸は、王ボいした初僕ま思は帶
ありが、丸ラなてかめがしい長を
どうござに航乗、汗テらた、乘輸深がつ
い誕事、流ア事き王し航生生が
すのをの丸た海

ごを木一たヤ日に桁そまさ工く六工木半あ
覽催○ん!本驚もんすれ海事、四マヘ製ぶりチあ
下しは月だト国か、なマ王で船年ス岩部りまヨど
さま、三なを内さ地にス帆丸すにのト瀬分にしつが
いす入〇、作にれ面大、と本を「のドたサき
の渠日どれもまにき
で中へ感るこす降さ
、の日心だん。ろを
ぜ海一さけな十数
ひ王とせのに年とじ
そ丸一ら木太前そさ
望のの一れ材き遠際
鏡に字三すあ木
会日。つ製、さ帆、りろ

香まりテますとつ横びり!今テではら年しま
川申すまいまするは、浜つの場まレす迷が一かし業し樂イの少安あ
生し。すア。雪冬いにく雪のでビがわい一經たの務くしアあし心ま
ま連がののをざすりの映以を、ずい月駕池度課おみのる、どり
れれ「皆來あ待來れし多像上見そ富かにし田、員願に皆無人い変
のまよ様年るつてばまさがにてれ山、てで業
やしんたちがく帆か楽とばつしに出て、いかとと横いす務
坊私主は頼るはみ初境た。もとにもがつかせ今員
はは四國はおさらし、環た。そ開きな富大れ、んまと
しなり山変した富がでし池。といが下で生
たにラて経くい米ほあスとたたか、どは生任
しなンい駕あつ、どまキが。の私ち昨活し

